

2022.8.16

災害リスク情報 <号外>

令和4年8月3日からの大雨と水害（水災）への備え

【要旨】

令和4年8月3日からの大雨では気象庁から「顕著な大雨に関する気象情報」が発表されるとともに、日本各地で大雨が発生し、多数の河川氾濫などが生じました。被害に遭われた皆様には、心からお見舞い申し上げます。

本稿では、8月3日からの大雨に関する情報についてまとめるとともに、今後も大雨が発生する可能性があることから、7月27日発行の号外で掲載した「避難への備え」について再掲します。

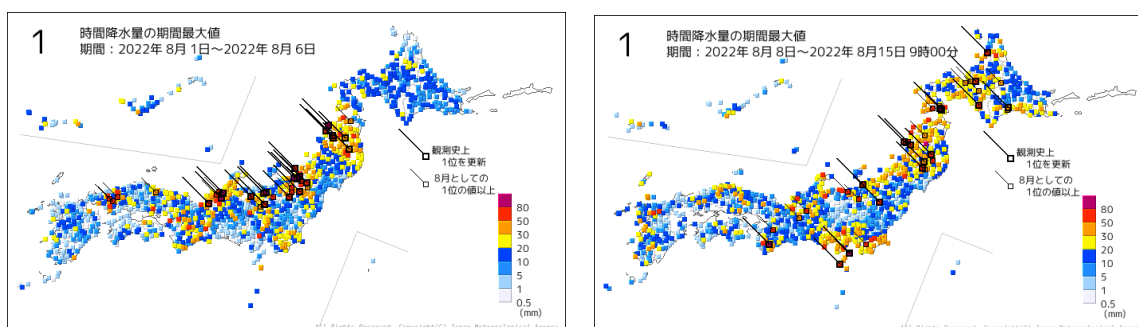
なお、本レポートは2022年8月15日時点の情報に基づいて作成しています。

1. 令和4年8月3日からの大雨について

低気圧が8月3日に東北地方を横断し、低気圧に伴う前線が8月4日にかけて北陸地方へ南下して停滞し、8月5日には本州南岸まで南下した。低気圧や前線に向かって高気圧の縁を回る空気や、台風6号を起源とする暖かく湿った空気が流れ込んだために、東北地方と北陸地方を中心に断続的に猛烈な雨が降り、記録的な大雨になった。8月8日から再び前線が北日本に伸びて停滞し、北海道地方や青森県では記録的な大雨となった。また、8月10日以降も東北地方で局地的・断続的な激しい雨が降った。8月13日は台風8号の影響で東日本太平洋側で、8月14日は全国的に大気の状態が不安定となり、激しい降雨が生じた地域があった。¹⁾

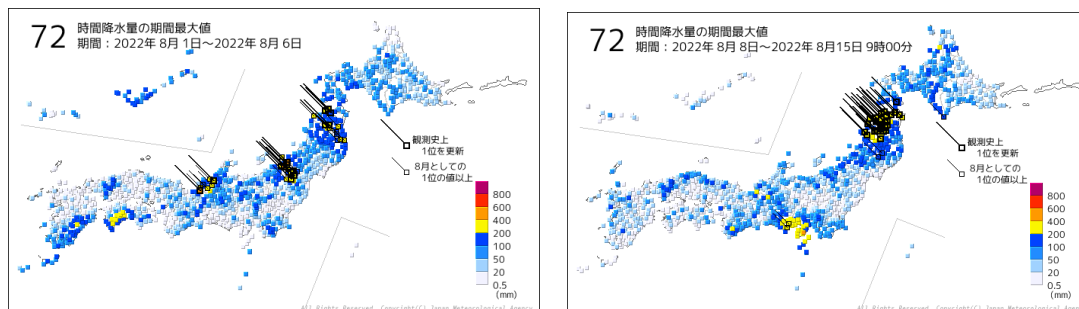
国土交通省の災害情報では、8月16日にかけて前線を伴った低気圧が北日本を通過する見込みであり、大雨に伴う土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に引き続き警戒が必要になる。

今回の大雨による降水量の状況を図1、2に示す。表1、2に示す通り、今回の大雨では特に北海道と東北地方の多くの場所で観測史上1位の降水量が観測されている。



【図1】1時間降水量の期間最大値

(左 期間：2022年8月1～6日／右 期間：2022年8月8～15日) (気象庁^{2),3)})



【図 2】72 時間降水量の期間最大値

(左図 期間：2022 年 8 月 1～6 日／右図 期間：2022 年 8 月 8 日～15 日) (気象庁²⁾、³⁾)【表 1】1 時間降水量 観測史上 1 位の値を更新した地域 (期間：2022 年 8 月 1～6 日) (気象庁²⁾)

都道府県	市町村	地点	更新した値		これまでの 1 位の値		統計 開始年
			mm	年月日 時分(まで)	mm	年月日	
青森県	西津軽郡深浦町	深浦	91.5	2022/08/03 07:26	70.1	1955/08/30	1940 年
青森県	十和田市	休屋	45.5	2022/08/03 07:14	42	2005/08/13	1982 年
秋田県	山本郡八峰町	八森	72.5	2022/08/03 08:08	72	2002/08/04	1976 年
秋田県	山本郡藤里町	藤里	68.0	2022/08/03 08:36	67.0	2011/08/17	1978 年
秋田県	北秋田市	鷹巣	70.5	2022/08/03 09:19	57	2002/08/04	1976 年
岩手県	二戸郡一戸町	奥中山	42.5	2022/08/03 10:42	41.5	2021/06/26	1977 年
山形県	長井市	長井	72.5	2022/08/03 18:42	71.5	2020/09/11	1976 年
福島県	喜多方市	喜多方	58.5	2022/08/03 23:16	55	1998/08/12	1976 年
福島県	南会津郡南会津町	南郷	65.5	2022/08/05 01:02	54	1981/08/02	1976 年
群馬県	吾妻郡草津町	草津	53.5	2022/08/04 15:47	52.0	2020/09/04	1976 年
新潟県	村上市	三面	94.5	2022/08/03 12:04	76.5	2021/06/14	1981 年
新潟県	胎内市	中条	92.0	2022/08/04 05:09	73.5	2020/08/30	1978 年
新潟県	岩船郡関川村	下関	149.0	2022/08/04 02:03	67	2004/07/17	1976 年
新潟県	上越市	安塚	85.0	2022/08/04 16:07	65.5	2022/07/12	1976 年
新潟県	上越市	筒方	66.0	2022/08/04 16:13	53.0	2019/08/25	1985 年
石川県	白山市	白山河内	108.0	2022/08/04 05:15	62.5	2015/06/21	1976 年
石川県	白山市	白山白峰	91.0	2022/08/04 10:48	54.0	2016/08/20	1977 年
福井県	南条郡南越前町	今庄	74.0	2022/08/05 09:13	63	1998/08/07	1976 年

【表 2】1 時間降水量 観測史上 1 位の値を更新した地域 (期間：2022 年 8 月 8 日～15 日)
(気象庁³⁾)

都道府県	市町村	地点	更新した値		これまでの 1 位の値		統計 開始年
			mm	年月日 時分(まで)	mm	年月日	
北海道 留萌地方	天塩郡遠別町	遠別	60.5)	2022/08/08 13:58	57.0	2013/08/20	1976 年
北海道 空知地方	樺戸郡浦臼町	浦臼	52.5)	2022/08/08 18:51	40.5	2011/08/14	1983 年

北海道 十勝地方	十勝郡浦幌町	留真	31.0)	2022/08/12 00:32	31.0	2017/09/18	1984 年
北海道 日高地方	新冠郡新冠町	新和	68.5)	2022/08/11 22:45	63	2006/08/19	1976 年
北海道 渡島地方	函館市	函館	64.0)	2022/08/08 19:53	63.2	1939/08/25	1889 年
北海道 渡島地方	函館市	高松	81.5)	2022/08/08 20:12	59.0	2008/07/23	2003 年
秋田県	男鹿市	男鹿真山	64.5)	2022/08/10 10:51	56.5	2008/08/30	1985 年
秋田県	南秋田郡五城目町	五城目	69.0)	2022/08/12 23:17	60.0	2011/07/28	1976 年
岩手県	盛岡市	好摩	61.5)	2022/08/14 03:02	55	2001/07/04	1976 年
岩手県	花巻市	豊沢	47.0)	2022/08/14 01:55	42.5	2018/08/16	1976 年
岩手県	胆沢郡金ヶ崎町	金ヶ崎	57.0)	2022/08/13 15:17	48.0	2020/08/31	2006 年
福島県	南会津郡南会津町	田島	56.0)	2022/08/08 13:54	54.5	2015/08/05	1976 年
東京都	大島町	大島北ノ山	81.0)	2022/08/13 21:38	73.0	2017/10/29	2003 年
東京都	神津島村	神津島	76.5)	2022/08/13 16:45	71.0	2018/09/25	2003 年
新潟県	長岡市	寺泊	61.0)	2022/08/14 06:39	59.5	2011/07/30	2001 年
和歌山県	田辺市	本宮	87.0)	2022/08/14 01:26	76	2002/07/09	1976 年

【表 3】雨の強さと降り方（気象庁⁴⁾）

1時間雨量 (mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10以上～ 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる	
20以上～ 30未満	強い雨	どしゃ降り				ワイパーを速くしても見づらい
30以上～ 50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	傘をさしてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく	道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）
50以上～ 80未満	非常に 激しい雨	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる				

8 月 15 日時点で国土交通省及び総務省消防庁から公表されている被害の状況は次の通り^{1),5)}。

（１）河川¹⁾

国管理河川と都道府県管理河川で合計 32 水系 96 河川で氾濫が生じた。なお、下記以外に、市町村が管理する河川での氾濫も生じている。

国管理河川（3 水系 3 河川）で氾濫：

山形県 最上川水系最上川で氾濫（5 カ所）

秋田県 米代川水系米代川で氾濫（4カ所）
石川県 梯川水系梯川で氾濫

都道府県管理河川（32水系93河川で氾濫）※国交省にて詳細確認中

【表4】氾濫した河川（国土交通省¹⁾）

都道府県	氾濫河川数	河川名
北海道	4水系5河川	松倉川水系湯の川、ウツツ川水系ウツツ川、ピシユクシュウツナイ川、中の川水系サンナス川、天塩川水系音威子府川
青森県	6水系13河川	蟹田川水系蟹田川、奥入瀬川水系奥入瀬川、高瀬川水系ニッ森川、川去川、岩木川水系相内川、平川、大秋川、尾別川、中里川、宮野沢川、山田川、津梅川水系津梅川、中村川水系中村川
岩手県	3水系8河川	馬淵川水系馬淵川、安比川、ニッ石川、十文字川、北上川水系北上川、松川、葛根田川、新井田川水系瀬月内川
秋田県	3水系13河川	米代川水系糠沢川、桧山川、下内川、羽根山沢川、小阿仁川、仏社川、五反沢川、引欠川、子吉川水系芋川、馬場目川水系三種川、豊川、内川川、富津内川
山形県	3水系11河川	最上川水系福田川、三合田川、田沢川、市の沢川、小白川、萩生川、誕生川、赤川水系西大鳥川、荒川水系荒川、横川、金目川
福島県	1水系3河川	阿賀野川水系一の戸川、高橋川、奥川
新潟県	9河川20水系	三面川水系新屋沢内川、前ノ川、大須戸川、小揚川、関口沢内川、薦川、葡萄川水系葡萄川、大川水系中継川、勝木川水系勝木川、阿賀野川水系中田川、石川水系百川、信濃川水系浄土川、荒川水系前川、堀川、鳥川、乙大日川、落堀川水系新金山川、柴橋川、舟戸川、貝屋川
石川県	1水系7河川	梯川水系鍋谷川、仏大寺川、滓上川、光谷川、館谷川、郷谷川、木場湯川
岐阜県	1水系1河川	木曽川水系水門川
福井県	2水系11河川	九頭竜川水系暮見川、皿川、羽生川、田島川、和田川、磯部川、江端川、七瀬川、大塩谷川、鹿森川、河野川水系河野川
滋賀県	1水系1河川	淀川水系高時川

(2) 土砂災害件数

【表5】土砂災害件数（国土交通省¹⁾）

北海道	1	青森県	11	岩手県	6	秋田県	2	山形県	5
福島県	12	新潟県	49	富山県	1	石川県	12	福井県	8
長野県	17	静岡県	1	三重県	1				

(3) 住家被害

【表6】令和4年8月3日からの大雨による被害（住家被害）（消防庁⁵⁾）

都道府県	全壊棟	半壊棟	一部破損棟	床上浸水棟	床下浸水棟	合計棟
北海道			2	12	76	90
青森県	7	24	11	78	141	261
岩手県				12	44	56
秋田県			2	145	261	408
山形県				162	263	425
福島県	1	1	2	15	137	156
千葉県				2	2	4
新潟県	1		4	757	1,052	1,814
石川県	1	4	15	314	1,125	1,459

福井県				188	210	398
長野県				1	28	29
岐阜県					6	6
滋賀県				14	15	29
奈良県				1	4	5
和歌山県				1	6	7
岡山県				1	31	32
合計	10	29	36	1,703	3,401	5,179

2. ハザードマップと浸水実態の比較

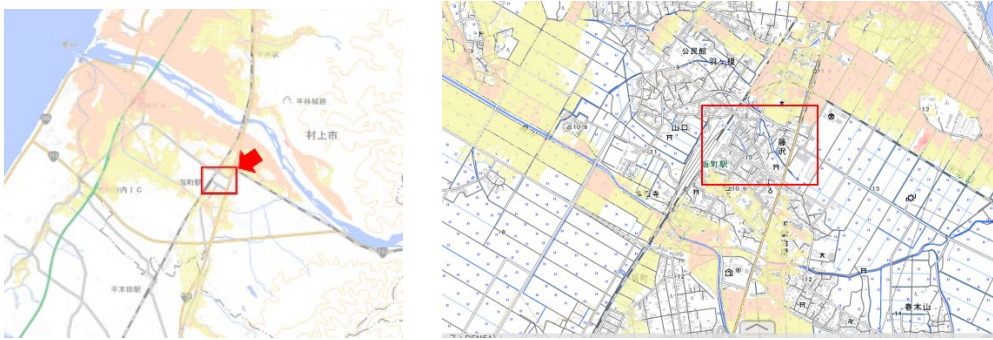
ここでは、国土地理院が作成、公表している新潟県村上市周辺の浸水推定図と、公開されている洪水ハザードマップの比較を行い、今回の浸水範囲がどの程度想定されていたかを検証する。

図3に国土地理院が公表した村上市周辺における浸水推定図、図4に国土交通省の重ねるハザードマップで公表されている当該地域の洪水ハザードマップのうち、計画規模の洪水ハザードマップを示す。同ハザードマップは「河川整備の目標とする降雨」により河川が氾濫した場合の洪水浸水想定区域図を示している。

国土地理院の調査による浸水域と計画規模の洪水ハザードマップを比較すると、概ね計画規模の洪水で想定されていたエリアで浸水が生じているが、同ハザードマップでは浸水が想定されていなかった一部エリアでも浸水が生じたと見られている（図中実線赤い四角で示す部分：坂町駅周辺）。当該エリアは「想定し得る最大規模の降雨」による洪水ハザードマップ（図5）では浸水が想定されており、想定最大規模の洪水ハザードマップでのみ浸水が想定されているエリアであっても大雨発生時には洪水や浸水に対して備えておく必要性を示唆しているといえる。



【図3】左図：2022年8月3日からの大雨による浸水推定図（新潟県村上市／8月4日時点）
右図：坂町駅周辺拡大（出典：国土地理院⁶⁾）※当社にて一部加筆



【図 4】左図：計画規模の洪水ハザードマップ 右図：坂町駅周辺拡大
(出典：国土交通省重ねるハザードマップ⁷⁾) ※当社にて一部加筆



【図 5】左図：想定最大規模の洪水ハザードマップ 右図：坂町駅周辺拡大
(出典：国土交通省重ねるハザードマップ⁷⁾) ※当社にて一部加筆

3. 「顕著な大雨に関する気象情報」と線状降水帯について

(1) 「顕著な大雨に関する気象情報」について

今回の大雨で気象庁から「顕著な大雨に関する気象情報」が出されているが、これは大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で実際に降り続けている際に出される情報で、警戒レベル 4 (9 ページ 図 10 参照) 相当以上の状況で発表されるものである。⁸⁾

気象庁が公表している「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準は次の通り。

1. 解析雨量 (5km メッシュ) において前 3 時間積算降水量が 100mm 以上の分布域の面積が 500km² 以上
2. 1. の形状が線状 (長軸・短軸比 2.5 以上)
3. 1. の領域内の前 3 時間積算降水量最大値が 150mm 以上
4. 1. の領域内の土砂キキクル (大雨情報 (土砂災害) の危険度分布) において土砂災害警戒情報の基準を実況で超過 (かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合 8 割以上) 又は洪水キキクル (洪水警報の危険度分布) において警報基準を大きく超過した基準を実況で超過

(2) 線状降水帯について

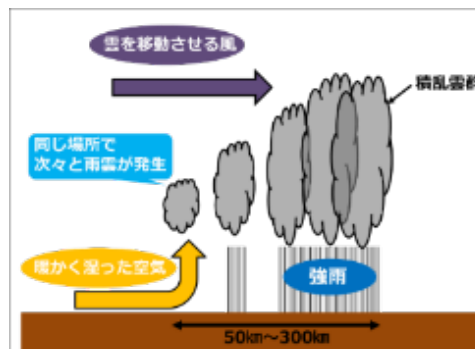
気象庁によると線状降水帯は下記の通り定義されている⁸⁾。

“次々と発生する発達した雨雲 (積乱雲) が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間に

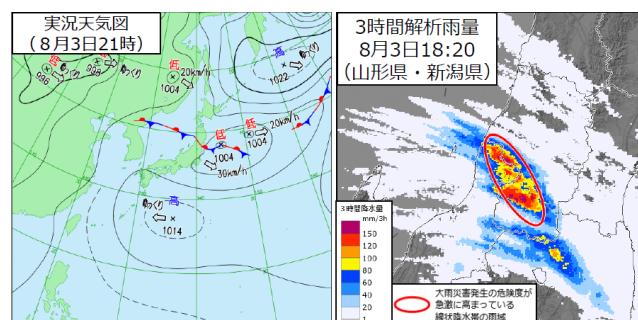
わたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をとまなう雨域”

図6にその模式図を示す。特に梅雨時期は、前線の停滞により同じ場所に持続して太平洋高気圧から吹き出す暖かく非常に湿った空気が流入することが多く、線状降水帯が発生しやすいといわれている。図7に示すように、8月3日からの大雨でも線状降水帯が確認されている。

線状降水帯は短時間かつ局地的に形成されることもあり、そういった場合は事前予測が困難であるため、リアルタイムな情報収集が重要である。なお、気象庁は令和4年6月から線状降水帯による大雨の可能性を半日程度前から呼びかける運営を開始している。



【図6】線状降水帯（バックビルディング型）形成の模式図（気象庁資料⁸⁾より当社作成）



【図7】8月3日の天気図（21時）と3時間解析雨量（18:20）

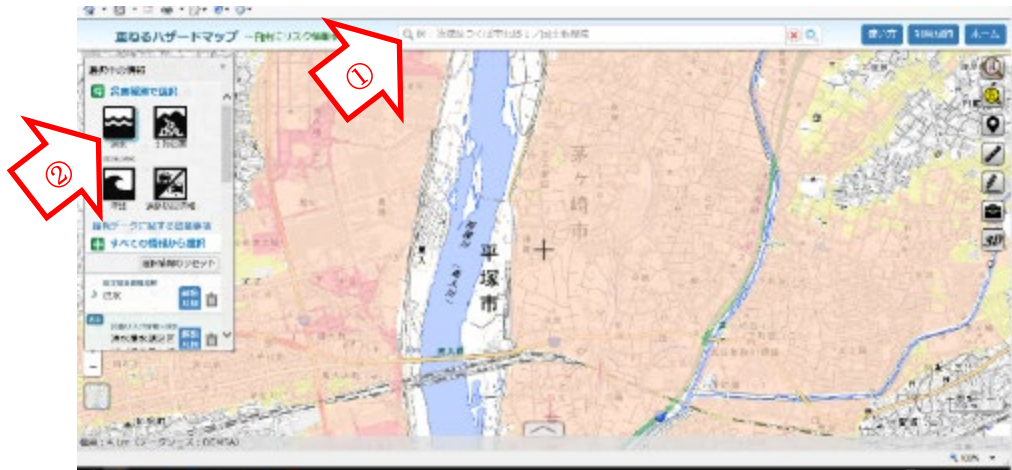
※右図の赤丸で囲まれたエリアが線状降水帯の雨域（内閣府⁹⁾）

4. 避難への備えについて

今後も大雨が発生する可能性もあるため、ここでは災害リスク情報＜号外＞（2022年7月27日）に掲載した、水災時の避難に向けて備えて頂きたいことについて再掲する。

（1）ハザードマップの確認と避難の検討

まず自治体などが公表するハザードマップを参考に、避難方法を検討する。例えば、国土交通省が公表している「重ねるハザードマップ」では、図8のとおり所在地の災害リスク（河川氾濫による浸水、土砂災害等）を確認することができる。「①所在地を入力」し、「②確認したい災害種別（洪水、土砂災害等）を選択」することで対象拠点周辺のリスクを把握できる。拠点に浸水リスクがある場合、想定されている浸水深により、鉛直避難（建物の二階以上への避難）か水平避難（建物からの立ち退き避難）かを検討し、水平避難が必要な場合は自治体が設置する避難所など**最適な避難先・避難経路の選定**をすることをお勧めする。なお土砂災害危険箇所や土砂災害警戒区域に該当する場合は、特に早めの水平避難が望まれる。



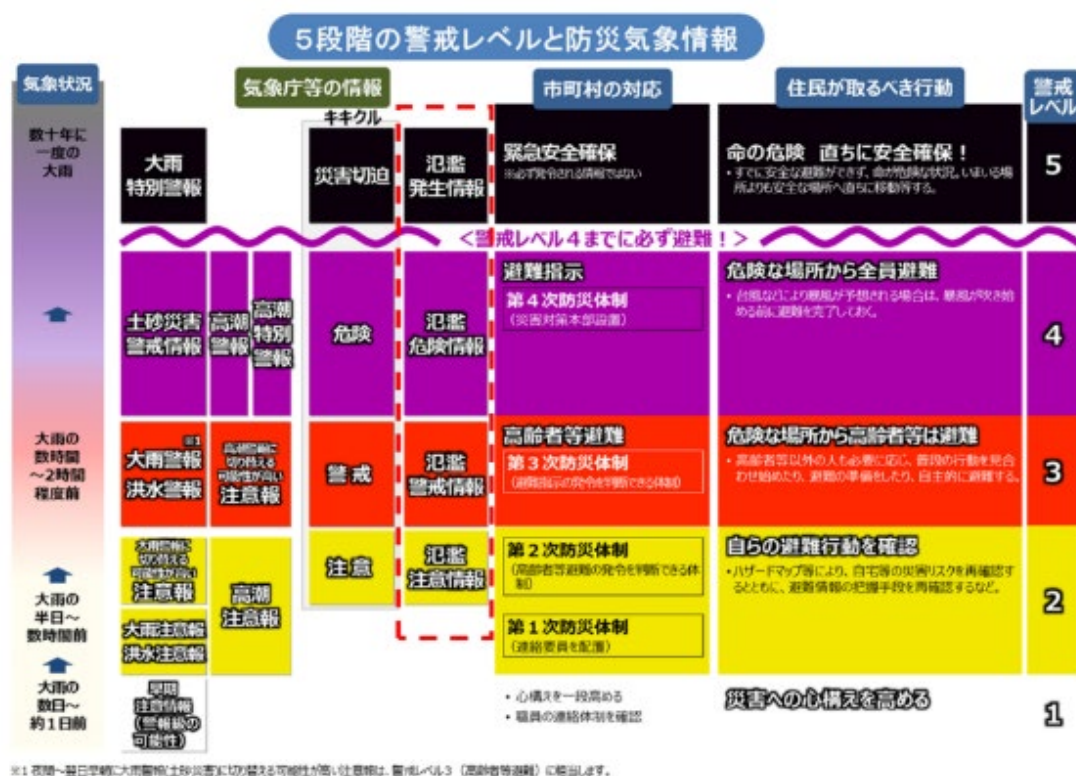
【図8】重ねるハザードマップ（国土交通省⁷⁾）における表示例
※弊社にて一部加筆、表示は洪水リスク（想定最大規模の浸水深）

コロナ禍の現状を鑑み、避難先の選定にあたっては、ハザードマップで確認できる避難所の他、親戚宅やホテルなど「**分散避難**」を念頭に置くことも重要となる。また、首相官邸では感染症対策のマスクなどもリストアップした非常用持ち出し袋のチェックリスト（図9）を公開している。このチェックリストには「子供がいる家庭の備え」や「高齢者がいる家庭の備え」も掲載されており、これらを参考にして、あらためてご自身の**持ち出し品を確認**する事をお勧めする。

非常用持ち出し袋 避難の際に持ち出すもの！	
<input type="checkbox"/> 水	<input type="checkbox"/> 軍手
<input type="checkbox"/> 食品 （缶詰（アルファ米など）、レトルト食品、ビスケット、チョコ、乾パンなど：最低3日分の用意）	<input type="checkbox"/> 洗面用具
<input type="checkbox"/> 防災用ヘルメット・防災ずきん	<input type="checkbox"/> 歯ブラシ・歯磨き粉
<input type="checkbox"/> 衣類・下着	<input type="checkbox"/> タオル
<input type="checkbox"/> レインウェア	<input type="checkbox"/> ペン・ノート
<input type="checkbox"/> 紐なしのズック靴	感染症対策にも有効です!!
<input type="checkbox"/> 懐中電灯（※手動充電式が便利）	<input type="checkbox"/> マスク
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ（※手動充電式が便利）	<input type="checkbox"/> 手指消毒用アルコール
<input type="checkbox"/> 予備電池・携帯充電器	<input type="checkbox"/> 石けん・ハンドソープ
<input type="checkbox"/> マッチ・ろうそく	<input type="checkbox"/> ウェットティッシュ
<input type="checkbox"/> 救急用品 （ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など）	<input type="checkbox"/> 体温計
<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ	一緒に持ち出そう!!
<input type="checkbox"/> ブランケット	<input type="checkbox"/> 貴重品 （通帳、現金、パスポート、運転免許証、病歴の診断書、マイナンバーカードなど）

【図9】 非常用持ち出し袋チェックリスト（首相官邸¹⁰⁾）※一部抜粋。弊社にて一部加筆

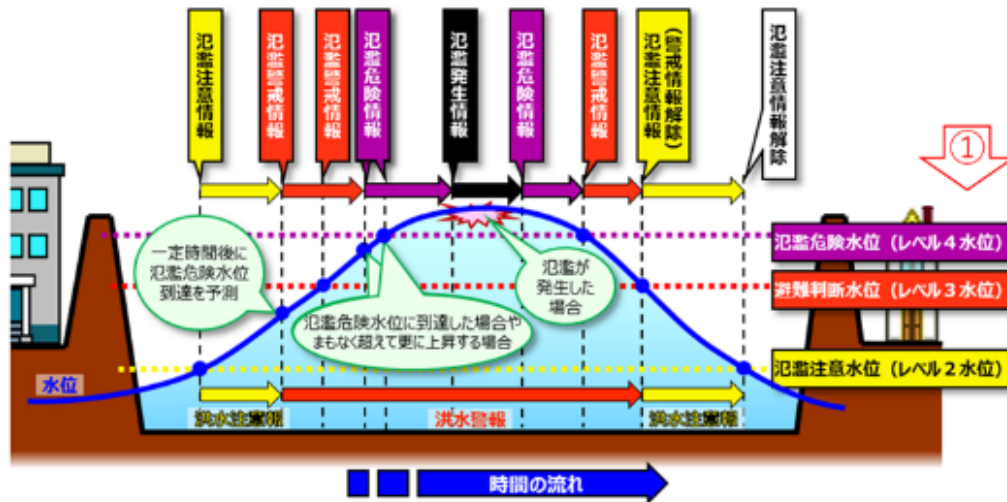
避難をするタイミングとしては、図10に示す気象庁等の情報から、対応する警戒レベルに応じた行動を早め早めに行う事をお勧めする。



【図10】 気象警報等が発表された際に命を守るためにとるべき行動の例（気象庁¹¹⁾）

※弊社にて一部加筆

図10の赤枠は河川管理者（国土交通省あるいは都道府県）と気象庁が共同で発表する洪水予報であり、指定河川においてあらかじめ決められた4段階の水位（図11中①）に基づいて情報が発表される。図11に示すのはその概念図であるが、警戒レベル4（紫色:速やかに避難）となる氾濫危険情報が発せられる時点の水位は堤防の高さに差し掛かることから、その前段階である氾濫警戒情報（赤色）、つまりは**警戒レベル3（図11内右側）までの避難が極めて重要**であることが示唆される。また、土砂災害や高潮でも同様に警戒レベル3の段階で避難行動を具体化することがより安全である。



【図 11】指定河川洪水予報の概念図（気象庁¹²⁾）※弊社にて一部加筆

（２）資産の安全対策や事業の停止

対象拠点付近で大雨等による災害が発生する可能性が高いと判断される場合は、企業においては以下の対策を講じられたい。

① 窓や扉の閉鎖・施錠

風雨の室内への吹き込み、備品等の水濡れを防止するため扉や窓・シャッター等を確実に閉止する。

② 屋外品の撤収・養生

風に飛ばされる可能性のあるもの、水に流される可能性のあるものを可能な限り屋内に片付ける。収容が困難なものはブルーシートやロープ等で養生・固定する。

③ 建物の浸水防止

建物の出入口や地下入口等に土のうや水のう、止水板を設置して建物内への浸水を防ぐ。

④ 設備等の保護・電源停止

高価な機器類や重要書類等は可能な限り事業所内の高所に移動させる。移動が困難なものはビニールシート等で養生する。避難を行う前に、電気機器類は可能な限り電源を OFF にする。できればブレーカーを切ることが望ましい。

⑤ 重要取引先への連絡

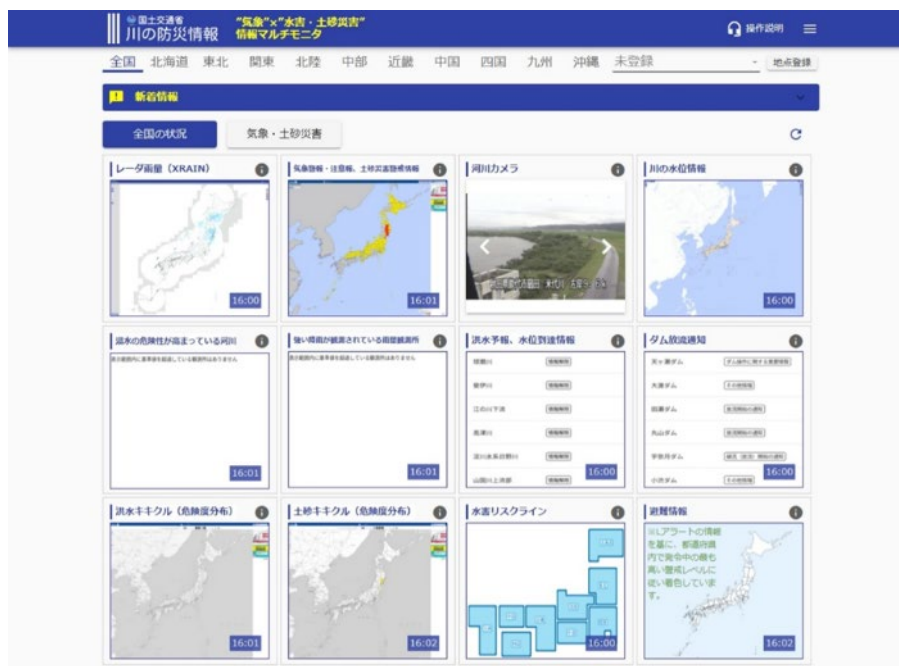
営業の縮小、停止が必要な場合は、重要な取引先から順に連絡を入れる。納品の前倒しや延期などを早期に相談する。

⑥ 出退社に関する連絡

従業員については早めの帰宅や出社の見送りを検討する。また、災害発生の可能性が高い状況では無理な帰宅や出社をしないよう呼びかける。

（３）最新情報の収集

「川の防災情報（“気象”×“水害・土砂災害” 情報マルチモニタ）」は、避難等に必要なリアルタイムな各種情報がまとめられている利便性の高いツールである。事前に降雨地域の状況、気象警報・注意報の発令状況、河川の水位状況等の情報を確認し、大雨が予想される際は、こまめにチェックすることをお勧めする。



【図 12】川の防災情報トップ画面（国土交通省¹³⁾）

5. まとめ

冒頭に記した通り、8月16日にかけて前線を伴った低気圧が北日本を通過する見込みであり、大雨に伴う土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に引き続き警戒が必要になる。

まずは、ハザードマップで自宅や事業所等の洪水リスク及び土砂災害リスクを確認のうえ、避難方法の検討や非常用持ち出し袋などの確認をお勧めする。

気象状況は刻々と変化し、事前の予想を超える可能性もあるため、大雨が予想される際はこまめにリアルタイムな情報の収集に努めることも重要である。

リスクマネジメント第一部
リスクエンジニアリング第2グループ
アシスタントマネジャー 中関輝久

参考文献

- 1) 国土交通省 災害情報 令和4年8月15日07:30現在「8月3日からの大雨による被害状況等について（第14報）」 <https://www.mlit.go.jp/common/001497913.pdf>
- 2) 気象庁 特定期間のデータ 2022年8月1日～2022年8月6日（低気圧や前線に伴う大雨）
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/periodstat/20220803a/20220806/24/index_pre.html
- 3) 気象庁 特定期間のデータ 2022年8月8日～2022年8月15日（継続中）（前線に伴う大雨）
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/periodstat/20220808a/20220815/24/index_pre.html
- 4) 気象庁「雨の強さと降り方」 https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/yougo_hp/amehyo.html
- 5) 消防庁災害対策本部 令和4年8月15日（月）7時30分 「令和4年8月3日からの大雨による被害及び消防機関等の対応状況（第17報）」 <https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/20220803ooame17.pdf>
- 6) 国土地理院 「令和4年（2022年）8月3日からの大雨に関する情報」
https://www.gsi.go.jp/BOUSAI/R4_0803_heavyrain.html
- 7) 国土交通省「重ねるハザードマップ」 <https://disaportal.gsi.go.jp/maps/>
- 8) 気象庁「線状降水帯に関する各種情報」
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/kishojoho_senjokousuitai.html
- 9) 内閣府 令和4年8月5日（金）「令和4年8月3日からの大雨に係る関係省庁災害対策会議 議事次第」
https://www.bousai.go.jp/pdf/220805_kaigi.pdf
- 10) 首相官邸「災害の「備え」チェックリスト」 <https://www.kantei.go.jp/jp/content/000064513.pdf>
- 11) 気象庁「防災気象情報とその効果的な利用」
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/ame_chuui/ame_chuui_p8.html
- 12) 気象庁「指定河川洪水予報」 <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/flood.html>
- 13) 国土交通省「川の防災情報」 <https://www.river.go.jp/index>

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。
また、本誌は、読者の方々に対して企業のリスク管理向上に役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

MS&ADインターリスク総研株式会社は、MS&AD インシュアランスグループに属する、リスクマネジメントについての調査研究及びコンサルティングに関する専門会社です。
災害や事故の防止を目的としたサーベイや各種コンサルティングを実施しております。
コンサルティングに関するお問い合わせ・お申込み等は、下記の弊社お問合せ先、またはあいおいニッセイ同和損保、三井住友海上の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

MS&ADインターリスク総研株式会社 <https://www.irric.co.jp/>

リスクマネジメント第一部

東京都千代田区神田淡路町2-105 TEL:03-5296-8944/FAX:03-5296-8942

<自然災害リスクコンサルティングメニュー>

1. 自社物件の自然災害リスクを網羅的に把握したい
→ハザード情報調査
地震、津波、風水災等のハザード情報（ハザードマップ等）を収集・整理し、報告書にまとめて提供します。
2. ハザードマップでは不明瞭な自社物件の水災リスクを把握したい
→水災対策コンサルティング
河川の氾濫や局地的大雨を想定した水災シミュレーションをベースに、事業継続計画（BCP）の見直しを含む各種アドバイス・サービスを提供します。

不許複製／Copyright MS&AD インターリスク総研 2022